

平成28年度 第4回 教育における 情報化に関する 研究会

参加無料
定員30名

学校種間の連携を考える

～保育・特別支援教育におけるICT活用実践より～

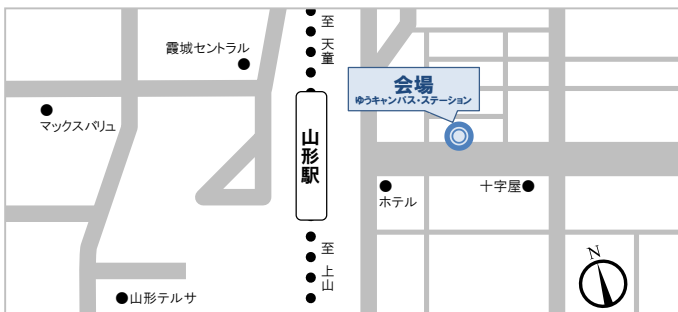
日時

平成28年6月25日(土)
13:30～17:00 (受付 13:00～)

場所

ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらきさわビル 1F)

※ JR山形駅東口を出て徒歩3分。
※会場近くに無料駐車場はありません。



主催 東北文教大学
後援 山形県教育委員会、山形市教育委員会
展示協力 株式会社内田洋行、株式会社インフィニテック、
パイオニアVC株式会社

13:35～14:25



教育用オシロスコープの開発から俯瞰する“教育の情報化”

東北文教大学 准教授 眞壁 豊 氏

“教育の情報化”とは、あらゆる教科・学校種を互いに繋げる、教育活動全体を考えるための重要な言葉です。開発した教育用オシロスコープを通じて、教科・学校種の視点を行き来しながら、現在の“教育の情報化”における話題を俯瞰します。

14:25～14:55 休憩・展示

14:55～15:45

ハイブリッド保育

～9割のアナログ保育と1割のデジタル保育～



認定こども園 つるみね保育園 園長
杉本 正和 氏

アナログとデジタル、伝統と先進、科学と運動音楽など、異なる分野も違和感なく融合できるハイブリッドな子どもたちを育てることが、激変が予想される未来を生き抜く力につながるのではないだろうか？！

つるみね保育園は、子どもたちの視野を広げ、好奇心探求心を育て、コミュニケーションを深める保育にチャレンジを続けている。過疎地の小さな施設の未来創造カリキュラムの実践事例を検証していただきたい。

15:45～16:35

特別支援教育におけるICT利活用について

～拡がるコミュニケーション～



福島県立平養護学校 教諭
稲田 健実 氏

2001年から使用が始まったICF(国際生活機能分類)の意義は、「障がいや人間と環境との相互作用の下で理解することとした」ということであると思います。ICFの考え方で重要なのが、「環境因子」です。環境因子を効果的に活用することで、「活動」や「参加」を実現可能なものにする取り組みであるともいえます。

本発表では、こうした「環境」の重要性を踏まえて、「合理的配慮」「インクルーシブ教育」「アシスティブ・テクノロジー」などをキーワードとして参加者の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

16:35～16:55

総括質疑

— 問い合わせ先 —

東北文教大学 児童教育研究センター
(教職実践センター 内)

TEL : 023-688-6852 (担当 : 柴崎)

FAX : 023-687-0230

E-mail : t_shibasaki@t-bunkyo.ac.jp

裏面にFAX申込票があります。
6月20日(月)までにお申し込みください。

(FAX:023-687-0230)

※電話でのお申し込みも受け付けています。(TEL:023-688-6852)





平成28年 月 日

東北文教大学
児童教育研究センター 行

所属先名 _____

担当者名 _____

電話番号 _____

メールアドレス _____@_____

「教育における情報化に関する研究会」参加申込書

参加なされる方の役職・氏名をご記入ください。

役 職	氏 名	備 考 (メールアドレス等)	情報交換会 (参加希望は○)

- ※ お手数おかけいたしますが、6月20日(月)まで送信願います。
- ※ 研究会終了後、別会場にて情報交換会を計画しております。参加費は4000円程度となる予定です。情報交換会の参加希望者には改めて連絡を差し上げます。

問い合わせ先
東北文教大学 教職実践センター
TEL 023-688-6852